

平成 30 年度

日本丸メモリアルパーク
指定管理者年間事業報告書

帆船日本丸記念財団・JTBCコミュニケーションデザイン共同事業体

目 次

1	平成 30 年度事業概観等	2
2	帆船日本丸事業	3
3	横浜みなと博物館事業	6
4	みなとの賑わい創出事業	9
5	緑地管理・活用及び研修施設事業.....	10
6	集客増に向けた重点取組	11
7	組織運営の質的向上に向けた取組.....	13
8	管理執行体制	14
9	事業一覧表	17
10	指定管理業務の収支状況	25

1 平成 30 年度事業概観等

(1) 施設概要

- ア 施設名
日本丸メモリアルパーク
- イ 所在地
横浜市西区みなとみらい二丁目 1 番 1 号
- ウ 対象施設等
 - (ア) 帆船日本丸
総トン数 2,278t
 - (イ) 横浜みなと博物館
7,155.31 m²
 - (ウ) 研修施設
873 m²
 - (エ) 緑地
38,100 m²
 - (オ) その他
タワー 4 棟

(2) 施設管理者

- ア 共同事業体
帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体
- イ 代表団体
公益財団法人 帆船日本丸記念財団
- ウ 代表者
会長 金近 忠彦
- エ 所在地
横浜市西区みなとみらい二丁目 1 番 1 号
- オ 設立
昭和 59 年 10 月 1 日
- カ 指定管理者期間
平成 28 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日（第 3 期）

(3) 事業概観

平成 30 年度は第 3 期指定管理期間の 3 か年目であり、更なる利用者の拡大と一層のサービスの向上を目指し、職員一丸となって新たな魅力づくりとみなとの賑わい創出に向け、多様な事業に取り組みました。

20 年ぶりにドライドックを実施した帆船日本丸の大規模修繕工事の影響で、対前年度比では主要数値目標は減少しましたが、事業展開を工夫し

たことで、30年度主要目標において、小・中・高等学校の来校数を除く項目で目標を達成することができました。

平成30年度目標項目	実績 (昨年度実績)	目標	対前年比
帆船日本丸及び横浜みなと博物館の有料入場者数	84,333人 (92,120人)	83,000人	8.5%減
日本丸メモリアルパーク利用者数	1,564,667人 (1,580,895人)	1,420,000人	1.0%減
小・中・高等学校の来校数	579校 (636校)	625校	9.0%減
お客様満足度	98.2% (99.3%)	97%以上	1.1ポイント減
効率的な財政運営・人材育成及び風通しの良い職場作り	推進	推進	—

参考 指定管理者応募時事業計画書から

指定管理期間の目標（令和2年度）	
帆船日本丸及び横浜みなと博物館の有料入場者数	8万7千人
日本丸メモリアルパーク利用者数	150万人
小・中・高等学校の来校数	650校
お客様満足度	97%以上
指定管理料の削減	税抜き5%削減

2 帆船日本丸事業

帆船日本丸は船齢89歳となりました。国指定重要文化財として今後末永く保存するため、職員による船体の整備、美観保持作業及び帆走艀装の整備を日々継続しました。また、定期検査工事に合わせ、約5か月かけて、20年ぶりに船渠を排水し、外板の補修などの大規模修繕への協力を行いました。

公開事業においては帆船日本丸を活用した、お客様の参加・体験型の事業展開を図るとともに、市民の皆様に日本丸の事業活動をより理解していただけるよう努めました。加えて、昨年^{につけたり}に続いて、重要文化財 附の展示等、船内展示の定期的な内容更新を行い、リピーターの確保に努めました。

(1) 保存事業

国指定重要文化財帆船日本丸の美しい姿を末永く保存するため、次の整備を実施しました。

ア 日常保守点検

- (ア) 観覧者通路・公開区域の安全点検、整備、美観保持
- (イ) 船体鋼材の発錆部整備及び船内真鍮磨き
- (ウ) マスト、ヤードその他帆走艀装の点検・整備
- (エ) 船体木部の点検・整備

イ 災害防止

- (ア) 観覧者、総帆展帆協力者及び甲板整備協力者の安全確保
- (イ) 船内防災センターにおける火災及び浸水並びに不法侵入者等に備えた24時間体制の集中監視実施

ウ 年次船体整備点検・整備

定期検査受検工事等

エ 大規模修繕への協力

- (ア) フォアマスト・インナージブステイ新替
- (イ) フォア及びミズンロイヤルヤード新替
- (ウ) 中部エントランス付近天井・漏水部・鋼壁補修
- (エ) 船橋全面窓枠及び窓枠周り鋼壁補修
- (オ) 木甲板補修
- (カ) 凹甲板右舷ボラード及びキャプスタン木製ライナー新替
- (キ) 外板補修及びリベット摩耗箇所補修



中部エントランス付近天井・漏水部・鋼壁補修



船橋全面窓枠周り鋼壁補修



木甲板補修



外板補修及びリベット摩耗箇所補修

(2) 公開事業

日本丸船内を年間 184 日公開しました。公開日には、現役時代の日本丸乗船経験者(ガイドボランティア)による無料ガイドサービスを行い、お客様から好評を頂きました。

展帆ボランティアの協力による総帆展帆を年間 9 回、満船飾を 10 回行い、普段は見ることのできない帆船日本丸の美しい姿を来場者に御覧いただきました。

また、大学生ボランティアによる船内各所の飾り毛布展示の変更も行いました。

加えて、4月 17 日から 7 月 16 日までは「帆船日本丸のエンジン展」と題し、予備品として船内に保管されていた日本丸のエンジン部品である、ピストン・シリンダカバーやブリキ製油差しなどを順路に公開しました。さらに、7 月 18 日から 10 月 21 日までは「海の高度測定儀の歴史展」を船内展示室にて開催しました。特別イベントとしては、夏休み期間中の小学生向け自由研究教室では、日本丸のロープワークについて講義をし、夏休み特別講座では、高度と方位の測り方を実施しました。11 月 4 日には、船長による大人向け船講座を開催しました。これらの活動を通して、市民の皆様から日本丸から得られる知識や経験を共有していただき、日本丸の 100 年保存に対する理解を得られるように努めました。



夏休み自由研究
ロープ作成



高度と方位の測り方講座



船長による大人向け船講座

(3) 青少年錬成事業

帆船日本丸における錬成事業(海洋教室等)は、訓練施設において様々な体験型訓練と団体生活を行うことにより、時間厳守、公德心、体力・精神力の向上、注意力、友愛、協調性、責任感及び積極性を習得させるとともに、海・船・港に関する理解と知識の増進を図ることを目的としています。平成 30 年度は 24 回(40 日)の海洋教室を実施し、海事思想の普及を図りました。海洋教室の実施に当たっては、実施団体と事前に訓練プログラムを調整し、可能な限り参加者の希望に沿ったプログラムを実施できるよう努めました。



展帆訓練



バウスプリット渡り



カッター訓練



甲板みがき



結索訓練



船内宿泊準備

3 横浜みなと博物館事業

平成 30 年度は子供から大人、ファミリーまでが、船や港、海に親しみ、関心を深めていただけるように、市民ボランティアとともに、展示案内や教育普及活動など体験的なプログラムを年間通して行いました。

柳原良平作品の日本で唯一の常設展示施設である、柳原良平アートミュージアムが博物館内に平成 30 年 3 月 27 日オープンし、大勢のお客様をお迎えすることができました。アートミュージアムでは年 3 回の特集展示「アンクルトリス誕生 60 年」、「横浜の船と港」、「宝船と七福神」を開催しました。

特別展示事業では、「所蔵品展 豪華客船ノルマンディー 大西洋航路最速をめざして」、企画展「絵本でたのしむ 海と船」、企画展「横浜船渠 ドック物語」を開催しました。それぞれの展示への理解をより深めていただくため、絵本のコンテストや横浜船渠第一号ドックの見学会、講演会などの関連事業を開催しました。



柳原良平アートミュージアム特集展示
「横浜の船と港」



豪華客船ノルマンディー 展示風景



絵本でたのしむ 海と船 入口



横浜船渠 ドック物語 展示風景

(1) 常設展示事業

入館者に常設展示をよりよく知り、楽しんでいただくために展示案内ボランティアによる展示案内、説明を毎日実施しました。また、学芸員が常設展示を深く掘り下げて分かりやすく解説する「学芸員のワンポイント展示解説」を引き続き実施して常設展示の魅力を伝え、リピーターの確保に努めました。展示の充実を図るため、横浜港の貿易統計、「港の見えるキッチン」で展示している情報など展示情報の更新を実施しました。

展示品のメンテナンスは、日常の職員による点検・保守や不具合の修理、定期保守点検を行い、良好な状態で見学できるよう努めました。

年度末には柳原良平アートミュージアムの展示コーナーの入れ替えを行い、見学の利便性が向上するよう努めました。あわせて、展示作品を約20点入れ替え、リピーターの来館者にも何度も楽しんでいただけるよう努めました。

(2) 特別展示事業

特別展示事業では、夏に「所蔵品展 豪華客船ノルマンディー 大西洋航路最速をめざして」を実施しました。ノルマンディー資料の収集家、故鈴木五郎氏のコレクションを展示し、洋上の宮殿と呼ばれた豪華客船ノルマンディーの生涯を振り返りました。関連行事では、記念講演会「豪華客船ノルマンディーの光と影」を開催しました。

秋には、明治から現在まで日本で出版された海、船の絵本を通して、子どもたちがどのように海、船に親しんでいたかを考える企画展「絵本でたのしむ 海と船」を開催しました。関連行事として、全国から海、船をテ

ーマにした絵本を公募する「海と船の絵本コンテスト」を実施し、最優秀賞受賞作品を横浜みなと博物館から出版しました。また、ワークショップ「コンテナくんの絵本ワークショップ」、海と船の絵本を来館者に読み聞かせる「海と船の絵本のおはなし会」を実施しました。

冬には、約20年ぶりの帆船日本丸大規模修繕工事に伴ってドライアップする第一号ドックを中心に、横浜船渠の歴史や果たしてきた役割をたどる企画展「横浜船渠 ドック物語」を開催しました。関連行事として記念講演会「横浜船渠の一、二号ドックー港の近代化遺産」、一般市民向けに「ドック見学会」を実施しました。

柳原良平アートミュージアムでは年3回、特集展示を開催しました。サントリーのCMキャラクターのアンクルトリスの誕生から60年を振り返る「アンクルトリス誕生60年」、柳原良平が愛した横浜港の風景やゆかりの船を描いた作品を展示した「横浜の船と港」、お正月に合わせた宝船などおめでたい作品を展示した「宝船と七福神」を開催しました。

展 覧 会 名	会 期
所蔵品展「豪華客船ノルマンディー 大西洋航路最速をめざして」	6月30日～8月26日
企画展「絵本でたのしむ 海と船」	10月20日～12月9日
企画展「横浜船渠 ドック物語」	2月2日～3月24日
柳原良平アートミュージアム特集展示名	会 期
アンクルトリス誕生60年	3月27日～7月1日
横浜の船と港	7月16日～12月24日
宝船と七福神	1月1日～3月24日



豪華客船ノルマンディー
記念講演会



絵本ワークショップ



ドック見学会

(3) 教育普及事業

年間を通して小・中学生及び大人を対象とした船の工作教室や海図教室など各種教育普及活動を積極的に行いました。毎年夏休みに実施している「船と港の夏休み自由研究」には、多くの小学生の参加がありました。市内

の小学校高学年向けには、海と船に親しむ活動を1年間通して行う「横浜みなとキッズクラブ」(全7回)を実施しました。



横浜みなとキッズクラブ見学会

また、入館者向けに毎週土曜日はキッズのためのクイズラリー、6月、2月の日曜日には、大人のためのクイズラリーを実施してリピーター増、入館者増に努めました。そのほか土、日、祝日に教育活動ボランティアの協力で、子供やファミリー層などを主な対象にした船の折り紙教室やペーパークラフト教室を開催し、参加者から御好評をいただきました。

なお、教育活動ボランティアを募集し新たに9名が活動を始めました。

4 みなとの賑わい創出事業

(1) 水辺の事業

都心のインナーハーバーに立地する好条件を生かした、水辺に親しむ体験型事業を実施し、みなとの賑わい創出に貢献しました。

日本丸メモリアルパークの内水域及び汽船道側水域を中心に、NPO法人横浜シーフレンズと連携し、シーカヤック教室を開催しました。昨年に引き続き、基本コースの半日コース、リピーター向けの中級コースとして、レスキュートレーニング講座、1日ツーリングコース、横浜港満喫ツーリングコース、親子体験教室を行いました。また、神奈川大学、横浜市立大学との連携教室を開催しました。(計33回開催、延べ725名参加)

横浜市カヌー協会・NPO法人横浜カヌー倶楽部と連携した、大人から子供まで広い世代で参加できるカヌーポロ教室を行いました。(計10回開催、87名参加)

7月7日(土)・7月8日(日)に実施した第7回「帆船日本丸杯カヌーポロ大会」には、15チーム、97名が参加し、日本丸カヌーポロ教室からも子供のチームが試合に出場しました。

なお、日本丸大規模修繕のため、シーカヤック教室とカヌーポロ教室は、11月から3月までの間中止しました。



シーカヤック教室



カヌーポロ教室

(2) パーク利用事業（イベント）

市民交流・リサイクル事業としてのフリーマーケット、吹奏楽演奏会をはじめとする音楽イベントなどを定期的に開催しました。

夏のピカチュウイベントやさくらフェスタ 2018 などみなとみらい21地区のイベントに積極的に参加しました。

また、親子向けのイベントやウォーキングイベント、音楽発表会などに対し、アリーナなどの場所の貸し出しを行い、年間を通じてパークの有効活用を進め賑わいの創出を図りました。



夏のピカチュウイベント



親子向けイベント

5 緑地管理・活用及び研修施設事業

(1) 緑地の維持管理・活用

ア 安全管理

歩行者のつまずき事故を防止するため、床ステップの総点検と注意喚起の表示を行いました。



歩行者のつまずき防止対策



高木の枝下ろし作業

台風により発生したクスノキの枝折れやサクラの倒木による来場者への二次的被害を防止するため速やかに撤去を行うとともに、同様の危険が予測されるワシントンヤシ他高木の枝下ろしを事前に行いました。



壁面タイル修繕工事

また、6月に発生した大阪北部地震によるブロック塀の倒壊事故を教訓として、パーク内の建築物の総点検を行うとともに、確認された壁面タイルのひび割れ個所2か所の補修工事を速やかに行い、来場者の安全確保に努めました。

イ 環境管理

お客様に快適に見学していただくため、年間を通じてパーク内に水耕

プランター60個を配置し、季節に合った花を年4回配置しました。また、さくら通り歩道に横浜市が設置した企業協賛花壇（みなとみらい21地区「まちかど花壇」）の維持管理を行い、グリーンボランティアとともに地域環境の美化改善に貢献しました。



まちかど花壇の維持管理

ウ 撮影

緑地を利用したCM撮影、テレビドラマ、イベントなどの撮影で合計102件の御利用をいただきました。



CM撮影風景

(2) 研修施設（訓練センター）の管理運営



利用風景

本施設は駅からのアクセスも良く、利用者から好評を得ています。

30年度は、5か月に及ぶ帆船日本丸の大規模修繕工事の中にあつて、利用者ニーズを的確に捉えリピーターの利用に力を入れた結果、第1・2会議室では過去3年間で最も高い収入となりました。

また、全会議室合計の収入でも、前年度比101%となりました。

6 集客増に向けた重点取組

主な取組は、次のとおりです。

(1) 共同事業体を構成している株式会社JTBコミュニケーションデザイン（以下「JCD」という。）と連携した取組

毎月、月次決算である魅力づくり集客アップ会議を実施し、課題の早期把握とその解決に努め、施設の魅力づくりや収入の確保、支出の抑制など経営改善を図りました。

ア スマートフォンやインターネットによるアンケートを実施し、利用者ニーズの把握に努めました。

イ JCDの経験や他施設の事例等のアドバイスにより、自動販売機ベンダーとの契約内容の改善並びに重要文化財を活用した集客事例を検討し

ました。

ウ ショップデータを複数の視点で整理・分析したことで売上の傾向や課題を把握し、売上アップにつなげました。

エ JTBグループのリソースを活用して、団体営業販促ツールであるJTBオリジナル企画商品「地恵のたび」に引き続き参画し、全国から集客を図りました。

(2) 学校や各団体への取組

ア 鉄道の相互乗入れや圏央道の開通などで、みなとみらい21地区への交通利便性の高まった北関東、東京都内、神奈川県内を中心にした学校や各団体、各旅行業者に対して約230か所訪問営業を実施しました。

イ 北海道、東北、関東、首都圏、中部、神奈川県内の小中高に約9,200件のダイレクトメールを発送しました。

ウ 横浜観光コンベンション・ビューロー主催の教育旅行向け商談会に参加し、営業PRを行いました。

エ 神奈川県が行っている京浜臨海部協議会へ参加し、横浜、みなとみらい21地区への集客を図りました。

オ 海洋都市横浜うみ協議会の一員として、「海洋都市横浜うみ博2018」に出展しました。

(3) インバウンド（訪日外国人客）集客増に向けた取組

訪日外国人観光客獲得への取組として、英語リーフレットやWebサイト、Facebook等での情報発信力を高め集客につなげました。2018年7月～9月に実施した「Welcome to NIPPON MARU and Yokohama Port Museum キャンペーン」では、外国人入館者約2,000名にステッカーのプレゼントを実施しました。

(4) 広告

対象を絞った情報誌に記事や広告を掲載し、集客増を図りました。

ア 夏休みの子供工作など体験型事業を紹介する「かながわサイエンスサマー」に掲載しました。

イ 学校修学旅行誘致用『月刊教育旅行』に掲載しました。

ウ 観光客向けの「MM線マップ」へ情報掲載しました。

エ 東京・ミュージアムぐるっとパス2018へ参加し、広告の掲出、パスの販売と利用を開始し、3,511名に御利用いただきました。

(5) 広報活動の強化

ア ホームページリニューアル3か年計画の2か年目に当たり、Webサイトの更新、公式Facebookやアプリのニュース等SNSでの広報活動を強化しました。

イ 帆船日本丸の大規模修繕に合わせ、新聞、海事関連雑誌、一般雑誌、タウンニュース、観光情報サイト等へ積極的に広告掲載等を働きかけました。

7 組織運営の質的向上に向けた取組

(1) 風通しの良い職場作り

職員一人ひとりが、必要な情報を共有できるよう、毎朝の朝礼で連絡事項の伝達、報告等を行いました。毎週木曜日には管理職業務調整会議を実施し、懸案や課題の解決を図るとともに、職員ミーティングを定例開催しました。

また、施設の委託業務を受託し、スタッフを常駐させている警備、設備、清掃事業者と毎月1回委託業務連絡会を開催し、コミュニケーションを深め、施設の安全な維持・管理を図りました。

(2) 各種研修会の実施・参加

財団職員の能力開発・スキルアップや人権啓発、コンプライアンス等を目的に各種の研修会等を実施（延べ56人参加）するとともに、横浜市や他団体が主催する研修会等に参加しました。（延べ15人参加）

運営協力をいただいているボランティアの研修会も開催してスキルアップ等を図りました。（延べ139人参加）

(3) 防災訓練の実施



10月の防災訓練

10月10日（水）の秋の訓練（32人参加）と1月26日（土）の文化財防火デー（30人参加）に西消防署指導のもと、救急救命、初期消火、情報伝達や避難誘導確認等の防災訓練を実施し、減災意識の向上に努めました。

また、3月4日（月）に日本丸メモリアルパークが実施会場になった、みなとみらい21地区内の合同防災訓練にも参加しました。

(4) アンケート調査（モニタリング）の実施

アンケート実施日及び回答数

10月24日（水）～27日（土） 回答数 300件

調査結果の主な内容は次のとおりとなりました。なお、カッコ内は29年度の数値です。

ア 来場回数（未回答7人を除く）

横浜みなと博物館への来場回数が、初めての方は235人 80.2%（174

人 66.7%)、リピータは 58 人 19.7%(86 人 33.0%)と大きく変動しました。柳原良平アートミュージアムのオープンによる効果が出ているものと思われま

イ 来館者の期待 (未回答 31 人を除く複数回答全 385 件を母数)

日本丸への興味 138 人 35.8% (139 人 38.8%)、次いで柳原良平アートミュージアム 87 人 22.6% (29 年度調査項目なし)、横浜みなと博物館への興味 56 人 14.5%(82 人 22.9%)、船・港への関心 44 人 11.4%(76 人 21.2%)となっており、昨年度オープンした柳原良平アートミュージアムへの期待が伺えます。

ウ 総合満足度

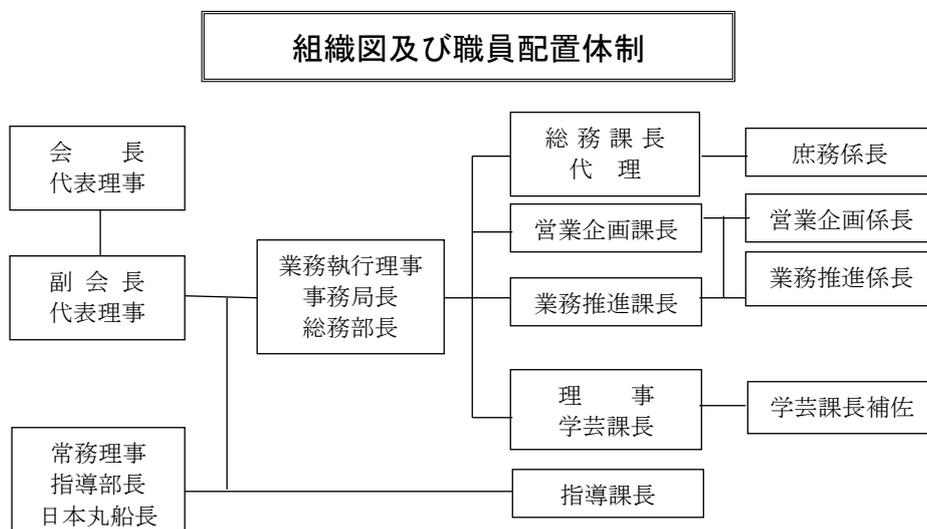
満足・やや満足の合計が 270 人 98.2% (256 人 99.3%)、不満 0 人 0% (1 人 0.4%)、やや不満は 5 人 1.8% (1 人 0.4%)、回答なし 25 人 (9 人) との結果が得られた。



8 管理執行体制

(1) 職員配置体制表

指定管理者の業務となる「日本丸メモリアルパーク施設」(以下「施設」という。)の管理運営については、次の職員配置体制で業務を執行しました。



業務内容	所 管		分担業務	所属員	備 考
総務管理業務	総務課	庶務係	庶務、経理、人事・労務、契約、給与、理事会等、市調整、売店	4名	アルバイト4名 売店運営
横浜みなと博物館管理運営業務	学芸課	学芸係	常設展示事業、特別展示事業、教育普及事業、調査・研究・収集・保存・出版活動事業、ライブラリー（資料閲覧室）事業	4名	アルバイト7名 ライブラリー、操船シミュレーター運営等
営業業務	営業企画課	営業企画係	広報宣伝集客誘致の企画実施、月次集客会議、入場料徴収、学校(市外)・旅行者営業、地域連携・イベント等	8名	アルバイト1名 旅行者営業・学校営業、市場調査、イベント企画、広報等
施設管理業務	業務推進課	業務推進係	学校関係(市内)・Webによる誘客、情報システム維持管理、緑地、施設維持管理、業務委託、訓練センター運営		アルバイト12名 受付、券売所、シーカヤック教室業務、訓練センター貸出管理業務全般
帆船日本丸管理運営業務	指導課		保存事業、公開事業、青少年錬成事業、教育普及事業	10名	
計				26名	

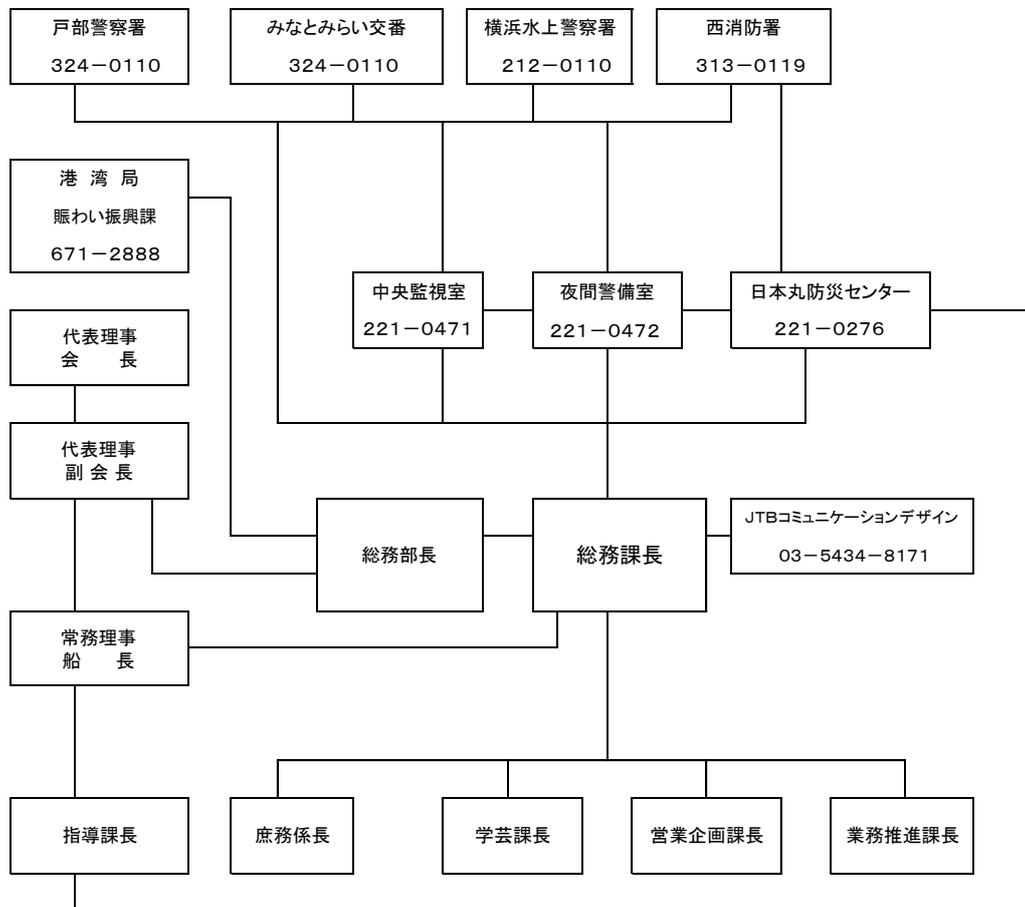
(2) 責任体制

次の責任体制で効率的な業務執行を図りました。

課 名	業務責任者	指 定 管 理 業 務
総 務 課	総務課長代理	庶務、経理（契約入札含む）、人事、給与、売店等運営、
学 芸 課	学芸課長	横浜みなと博物館事業、常設展示事業、教育普及事業、調査・研究・収集・出版活動事業、ライブラリー事業
営業企画課	営業企画課長	広報宣伝集客誘致の企画実施、月次集客会議、入場料徴収、学校(市外)・旅行者営業、地域連携・イベント等
業務推進課	業務推進課長	学校関係(市内)・Webによる誘客、情報システム維持管理、緑地、施設維持管理、業務委託、訓練センター運営等
指 導 課	指導課長	帆船日本丸事業保存事業、公開事業、青少年錬成事業、教育普及事業

(3) 緊急連絡体制

緊急時に備え次の連絡体制を設置しました。



8 事業一覧表

【帆船日本丸事業】	
帆船日本丸公開 4月～10月	船内を年間184日一般公開、公開日は次の日を除く毎日 ・月曜日（祝日にあたる時は公開、翌日が休館日） ・年末（船体整備期間中に含むため、なし） ・船体整備（11月1日から3月31日）
総帆展帆（9回） 延べ972人のボランティア が参加	4月29日（日）、5月13日（日）、5月27日（日）、 6月10日（日）、7月16日（月・祝）、8月19日（日）、 9月2日（日）、9月23日（日）、10月8日（月・祝）
親子展帆	親子展帆 3回実施（参加者251人）
満船飾（10回） 国民の祝日に実施	4月29日（昭和の日）、5月3日（憲法記念日）、5月4日（みどりの日）、5月5日（こどもの日）、6月2日（開港記念日）、 7月16日（海の日）、8月11日（山の日）、9月17日（敬老の日）、9月23日（秋分の日）、10月8日（体育の日）
海洋教室	半日・1日コース合計8回 参加者362人 半日コース：7月21日23人、8月3日23人、8月5日30人 1日コース：4月14日81人、4月15日71人、7月24日25人、 9月28日87人、10月6日22人 宿泊コース合計16回 参加者1,036人 4月5日～6日47人、4月12日～13日71人、5月9日～10日90人、 5月15日～16日18人、5月23日～24日57人、5月29日～30日46人、 6月2日～3日25人、6月7日～8日53人、6月14日～15日76人、 6月20日～21日73人、6月30日～7月1日98人、7月7日～8日99人、7月12日～13日54人、 10月25日～26日42人、3月9日～10日92人、3月16日～17日95人
教育普及事業	実施回数5回、参加者235人 セイル裁断作業見学会 6月11日 7人 海洋講座 リベット構造 6月23日 4人 日本丸でロープを学ぼう！作ろう！ 8月1日～4日 8人 夏休み特別講座 高度と方位の測り方 8月26日 16人 キャプテン特別講座 11月4日 4人
総帆展帆協力者登録数	延べ2,283人 総帆展帆協力者として登録されている市民ボランティア
帆船日本丸船内ガイド	44人 登録ボランティアによる船内ガイドを実施
甲板清掃ボランティア等	112日の作業日に延べ498人のボランティアがブラスワーク（真ちゅう磨き）や整備作業を実施。また、ベンディング・アンベンディングに3日間延べ196人のボランティアが参加。

【横浜みなと博物館事業】	
常設展示事業 4月～3月	次の日を除く毎日公開 月曜日（祝日にあたる時は公開、翌日が休館日） 年末（12月29日から12月31日まで） 害虫燻蒸期間（1月28日～2月1日）
展示案内4月～3月	展示案内ボランティア（登録ボランティア31人）による常設展示の説明
柳原良平アートミュージアム事業	<ol style="list-style-type: none"> 1 特集展示「アングルトリリス誕生60年」 会期：3月27日（火）～7月1日（日） 28,970人 2 特集展示「横浜の海と船」 会期：7月16日（月・祝）～12月24日（月） 49,071人 3 特集展示「宝船と七福神」 会期：2019年1月1日（火・祝）～3月24日（日） 12,594人 4 柳原良平アートミュージアム展示更新 展示作品約20点を入れ替え 3月25日（月）
特別展示事業	<ol style="list-style-type: none"> 1 所蔵品展「豪華客船ノルマンディー 大西洋航路最速をめざして」 会期：6月30日（土）～8月26日（日） 8,380人 関連行事：記念講演会「豪華客船ノルマンディーの光と影」 （講師：海事史家 野間 恒） 8月4日（土） 118人／学芸員による展示解説 7月14日（土）、8月12日（日）、8月26日（日）計52人 2 企画展「絵本でたのしむ 海と船」 会期：10月20日（土）～12月9日（日） 5,885人 関連行事：海と船の絵本コンテスト 応募総数39点（審査委員長：絵本作家 ヒサクニヒコ、こぐま社編集長 関谷裕子、横浜美術大学准教授 宮崎詞美、横浜みなと博物館館長 青木治） ／コンテナくんの絵本ワークショップ11月4日（日）（講師：絵本作家 谷川夏樹） 20組54人／海と船の絵本のおひなし会（協力：横浜市中央図書館、おひなしケーゲル、水曜会） 10月20日（土）、10月27日（土）、11月3日（土・祝）、11月10日（土・祝）、11月17日（土・祝）、11月24日（土）、12月1日（土）、12月8日（土） 計166人／学芸員による展示解説11月23日（金・祝）、12月9日（日） 計33人 3 企画展「横浜船渠 ドック物語」 会期：2月2日（土）～3月24日（日） 5,964人 関連行事：記念講演会「横浜船渠の一、二号ドック—港の近代化遺産—」 3月3日（日） 120人／学芸員による展示解説 2月9日（土）、3月2日（土）、3月16日（日）計174人／ドック見学会 2月24日（日） 96人

<p>教育普及事業</p>	<p>教育普及ボランティアの協力を得ながら次の事業を実施（登録人数 28 人）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 横浜みなとキッズクラブ 横浜みなと博物館や日本丸、内水域、横浜港をフィールドにした体験型活動を同じメンバーで1年を通して行い、身近なところから海と船と港、くらしと環境などに親しみと関心を深める小学生（高学年）向け事業。延べ179人 ワークシートを使った博物館・日本丸・パーク探検・造船所見学会、工作教室、シーカヤックなどを7回実施し、活動結果を館内に展示。 また、活動の中で作成した新聞を応募し、（公財）日本海事広報協会ジュニア・ SHIPPING・ジャーナリスト賞（佳作）を受賞。 2 なるほど！ミナト散歩ー開港の道コースー 5月12日（土）20人 3 ソーラーで動く船工作教室 7月27日（金）57人 4 ポンポン船工作教室 7月26日（木）48人 5 モーターで動く船工作教室 7月28日（土）・29日（日）89人 6 船と港の夏休み自由研究 8月10日（金）～19日（日）43人 7 親子の海図教室 8月11日（土・祝）120人 8 大人の海図教室 11月17日（土）35人 9 キッズのためのクイズラリー（小・中学生向け／年間） 高校生以下共通券100円の土曜日の小・中学生向け事業。展示をよく見て答えるクイズラリーを実施。51回2,043人 10 楽しい船の折り紙教室（こども向け）52回2,240人 11 学芸員のワンポイント展示解説 学芸員が常設展示を掘り下げて解説 6回46人 12 みなと博館長トーク 館長が海・船・港について解説 6回169人 13 サンデーペーパークラフト教室（ファミリー向け）53回2,613人 14 大人のためのクイズラリー（大人向け）5回862人 15 ホリデーペーパークラフト教室（ファミリー向け）5回293人 16 ホリデー船の折り紙教室（ファミリー向け）7回397人
<p>調査・研究・収集・出版活動事業</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 資料調査・研究等事業 横浜港を中心とした資料の調査、研究、収集、整理、保存を行い、その成果を公開及び展示・教育活動に反映。また、資料整理のデータベース化を推進。 寄贈994点、購入86点、採集352点 2 出版活動 年間行事予定表、企画展に合わせた図録等を出版。 3 資料貸出し・レファレンス 資料の貸出・閲覧、写真撮影のほか、レファレンスサービスを実施。 資料特別利用：日本郵船歴史博物館、萩博物館など3件

	資料貸出：日本郵船歴史博物館、萩博物館など3件、9点、画像などを貸出。
ライブラリー事業	<p>横浜港や船、海に関する図書・逐次刊行物等を収集・整理・公開し、小学生から専門家に学習、研究の場を提供。 データベース化の蔵書情報はライブラリー、ホームページで公開。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公開日・公開時間 博物館と同様 2 利用方法（料金等） 博物館の入館者の利用は無料。ライブラリーのみ利用は1人100円。コピーサービス（有料）のほか、レファレンスサービスを実施。 3 収集・整理 横浜港、港運、海運、船舶、航海等に関する図書、逐次刊行物等を収集（購入143冊・寄贈88冊・その他34冊）・整理して配架しました。 また、図書のデータベース化（約24,380冊）を進めるとともに、保守点検を行い、良好な状態を維持。次年度はより利用しやすく、他施設とのネットワーク化と年間管理費の縮減を目的にデータベースを移行予定。今年度は移行に向けたデータの整理を実施。
施設外部貸出	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別展示室 国土交通省関東地方整備局港湾空港部、横浜帆船模型同好会、横浜商船模型同好会 計3件 2 常設展示室1階展示スペース 関東海事広報協会、海上保安庁交通部、横浜海上保安部 計3件
その他	大学の博物館見学実習への対応や出張講演などの館外活動を実施 5件105人
【みなとの賑わい創出事業】	
水辺の事業 シーカヤック教室 カヌーポロ教室 カヌーポロ大会	<p>水辺の事業の柱として、水域及び自動車道側静水域で、シーカヤック教室、カヌーポロ教室、カヌーポロ大会を開催。なお、日本丸大規模修繕工事のため、シーカヤック教室とカヌーポロ教室は、11月から3月までの間中止しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 シーカヤック教室の通年開催 33回の開催で725人が参加、利用料金は前年度比120% 2 カヌーポロ教室の開催（おとなは新規） 10回の開催で87名が参加 3 第7回帆船日本丸杯カヌーポロ大会（関東ポロリーグ神奈川大会）の開催 7月7日（土）～8日（日） 15チーム97名が参加

<p>パーク利用事業イベント</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 フリーマーケット8回（雨天・荒天・11月以降日本丸の大規模修繕工事で中止9回） 2 吹奏楽演奏会13回（実施10回、中止3回） 3 ゴールデンウィークイベント（ファミリー向け）音楽、参加体験事業・工作教室、Beautiful Mother Park（貸し出し） 4 横浜市のプロモーション事業 積極的な誘致と連携した開催「ピカチュウ大量発生チュウ！」 5 横浜みなとみらい21関係イベント 「アマモの種まきと植え付け会」「みなとみらい合同防災訓練」「新港ハロウィンシルバニアファミリー仮装パレード」「さくらフェスタ」など 6 進水記念祭（先着89名様にカレンダープレゼント）
<p>緑地の維持管理・活用</p>	<p>パーク来場者及び地区来街者向けの景観向上、賑わいの創出。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 緑地 近隣新設校「みなとみらい本町小学校」2年生と緑と花の育成で交流事業を行いました。 2 撮影 利用件数102件  <p style="text-align: center;">プランターで花の育成</p>
<p>グリーンボランティア</p>	<p>近隣地域住民を中心として日本丸メモリアルパークの緑花整備に理解ある協力者12名（登録者数）が、年間を通じて緑化のボランティア活動を行いました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 活動日（毎月第1・第3土曜日午前中） 2 主な活動内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) パーク花壇／プランターの手入れ (2) 横浜みなと博物館屋上芝生の手入れ (3) 博物館ガラス窓「緑のカーテン」づくり 3 その他の活動 みなとみらい21地区「まちかど花壇」緑花維持管理作業  <p style="text-align: center;">グリーンボランティアによる 「緑のカーテン」づくり作業</p>
<p>研修施設（訓練センター）の管理運営</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 貸出期間 12月29日～1月3日、1月28日～29日を除く全期間 ※設備点検のため部分的に貸出不可日あり 2 年間稼働率 第1・第2会議室59.7%、第3会議室54.5%、小会議室34.7% 3 利用料金前年度比101%

【集客増に向けた重点取組】

<p>団体への取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 タイムリーな情報発信・訪問営業の継続 <ol style="list-style-type: none"> (1) 横浜市内、神奈川県内の学校遠足・学校行事等誘致 (2) 首都圏小・中・高等学校遠足、社会見学の誘致 (3) 全国からの修学旅行誘致のための情報発信の継続 月刊「修学旅行」への継続的な広告掲載 (4) 横浜観光コンベンション・ビューローの教育旅行誘致事業 (5) 新幹線開通を考慮した営業 (6) 北関東等を中心とした学校・団体・旅行各社への営業等 2 来館誘致資料 <ol style="list-style-type: none"> (1) 関東近県や首都圏を修学旅行候補地としている北海道、東北、中部などの小・中学校（一部高等学校）に来館誘致のダイレクトメール発送（9,200件） (2) 配布資料は地域や学校種（小・中・高・特別支援学校）それぞれの特性に応じて内容を工夫 (3) 営業用資料を別途作成し、いつでも携行できるよう準備し活用（旅行社・学校・教育委員会向け） 3 Webでの情報提供と下見 <ol style="list-style-type: none"> (1) 団体向け、学校向けWebページ等を常時更新 (2) 横浜市のふれあいコンサート向けWebページ開設 (3) 下見の重視と配布資料の改善 4 料金施策 単館券の通年販売 5 旅行会社向け取組 旅行会社（JTB等）、鉄道各社旅行部門（JR東日本等）へ定期的に情報発信し、個人・団体観光客への情報提供及び集客チャネルとして連携強化 6 訪日観光客誘致の取組と多言語ガイドシステムのPR 横浜観光コンベンション・ビューローと連携し、海外で開催される観光展などで海外メディアへの情報提供
<p>横浜市・近隣施設等との連携</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設の認知度の向上による来館促進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 西区を始めとした地域の市民活動支援センターの利用団体、子育て支援拠点、老人クラブなどへの施設情報・イベント情報の提供 (2) 各区のイベントと連携 2 観光客（宿泊客）の来館を促進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 近隣ホテルの宿泊者向け割引チラシの配布 (2) 宿泊プランの企画提案 (3) 当館の情報提供 3 イベントや展覧会等の共同実施及び告知 （近隣施設連携による相互来館促進） <ol style="list-style-type: none"> (1) 横浜乗りものフェスティバル（クイズラリー） 原鉄道模型博物館・日産グローバル本社ギャラリー、三菱みなとみらい技術館・日本郵船歴史博物館・横浜市電保存館 (2) みなと春 MARCH キャンペーンに参加、イベント情報を広報 (3) 東京・ミュージアムぐるっとパス 2018 に参加し、パスの販売と利用、告知を開始

(4) 海と山と丘の公園交流

日本丸メモリアルパーク（横浜市）、神奈川県立相模原公園（相模原市）、国営アルプスあづみの公園（長野県安曇野市・長野県大町市）の3公園交流

ア 相模原公園&日本丸メモリアルパーク&あづみの公園
共同写真展（花壇の設置期間 7 月から 10 月 応募期間 1 月、写真展示 3 月）



相模原公園写真コンテストのテーマのひとつ、サンパチェンスの花壇を日本丸メモリアルパークにて展示

イ 相模の大凧ミニチュア展示（1月）



横浜みなと博物館1階フリーゾーンに相模の大凧ミニチュアを展示

【組織運営の質的向上に向けた取組】

各種研修会の実施及び参加

主催部分の財：財団、他：市又は団体

月 日	研 修 名	参加者数	主催
4月7日 4月8日 4月21日	春期新規展帆ボランティア養成訓練	17人	財
4月11日	博物館ボランティア館外研修	21人	財
4月13日	新採用研修（横浜みなと博物館バックヤードツアー）	6人	財
5月18日	県博物館協会総会	1人	他
7月2日 7月3日 7月4日 7月5日 7月9日	クレーン及び玉掛け内部研修（指導部職員）	2人	財
7月13日	メンタルヘルスマネジメントの基礎研修会	1人	他
9月5日	ハラスメント防止研修	1人	他
9月14日	神奈川県公益社団・財団法人研修会	1人	他
10月5日	神奈川県博物館協会第3回研修会	1人	他
11月2日 11月6日 11月22日 11月28日	港湾局人権啓発研修（子供・障害・同和・女性）	4人	他
11月16日	メンタルヘルスマネジメント研修会	1人	他
11月20日	第2回ウオーターフロント研究会	1人	他
12月2日	秋期博物館ボランティア館外研修	35人	財
12月5日 12月6日	みなとの博物館ネットワーク・フォーラムスキルアップ交流会	1人	他
12月12日 ～14日	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 平成30年度博物館学芸員専門講座	1人	他
1月31日	博物館ボランティアホスピタリティ研修	35人	財
2月15日	全国歴史民俗系博物館協議会研修会・神奈川県博物館協会 第4回研修会	1人	他
3月8日 3月12日 3月15日	職員研修 （コンプライアンス・コンプライアンス・個人情報）	48人	財
3月24日	神奈川県博物館協会第5回研修会	1人	他
3月中	博物館ボランティアマンツーマン研修	31人	財

10 指定管理業務の収支状況

平成 30 年度 収支決算書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部			
1 事業活動収入			
① 基本財産運用収入	12,012,000	4,317,969	7,694,031
② 特定資産運用収入	0	2,343,906	△ 2,343,906
③ 利用料金収入	49,407,000	57,432,800	△ 8,025,800
観覧料収入	23,307,000	25,702,947	△ 2,395,947
ミュージアム特別展示室使用料	265,000	294,000	△ 29,000
研修施設使用料	8,050,000	9,185,610	△ 1,135,610
緑地使用料	4,690,000	7,088,240	△ 2,398,240
海洋教室等収入	8,095,000	7,841,620	253,380
タワー管理料収入	5,000,000	7,320,383	△ 2,320,383
④ 受託事業収入	308,576,000	303,031,972	5,544,028
⑤ 自主事業収入	22,356,000	26,986,638	△ 4,630,638
シーカヤック事業収入	2,398,000	2,592,700	△ 194,700
利用料金関連収入	2,015,000	3,251,783	△ 1,236,783
自販機手数料収入	8,569,000	10,789,166	△ 2,220,166
賃借料等収入	9,374,000	10,352,989	△ 978,989
⑥ 記念品販売収入	13,804,000	18,632,128	△ 4,828,128
⑦ 補助金収入	7,749,000	6,070,000	1,679,000
⑧ 寄附金収入	20,000,000	27,438,072	△ 7,438,072
⑨ 雑収入	1,674,000	3,590,627	△ 1,916,627
事業活動収入計	435,578,000	449,844,112	△ 14,266,112
2 事業活動支出			
① 施設運営事業費支出	454,503,000	457,310,766	△ 2,807,766
(1) 帆船日本丸事業費支出	263,532,000	272,295,029	△ 8,763,029
ア 保存事業費	196,146,000	206,797,759	△ 10,651,759
イ 公開事業費	54,001,000	53,435,739	565,261
ウ 青少年練成事業費	13,385,000	12,061,531	1,323,469
(2) 横浜みなと博物館事業費支出	138,967,000	142,312,168	△ 3,345,168
(3) 緑地事業費支出	52,004,000	42,703,569	9,300,431
② 指定管理者管理費支出	48,069,000	51,602,183	△ 3,533,183
③ 自主事業費支出	7,576,000	16,348,926	△ 8,772,926
(1) シーカヤック事業費支出	2,028,000	921,422	1,106,578
(2) 自主事業管理費支出	5,548,000	15,427,504	△ 9,879,504
④ 売店事業費支出	14,173,000	17,757,696	△ 3,584,696
事業活動支出計	524,321,000	543,019,571	△ 18,698,571
事業活動収支差額	△ 88,743,000	△ 93,175,459	4,432,459

II 投資活動収支の部			
1 投資活動収入			
① 特定資産取崩収入	95,250,000	110,640,200	△ 15,390,200
(1) 退職給付引当資産取崩収入	0	378,200	△ 378,200
(2) 特別修繕引当資産取崩収入	95,250,000	110,262,000	△ 15,012,000
投資活動収入計	95,250,000	110,640,200	△ 15,390,200
2 投資活動支出			
① 特定資産取得支出	21,973,000	26,681,472	△ 4,708,472
(1) 特別修繕引当資産取得支出	20,000,000	24,438,072	△ 4,438,072
(2) 退職給付引当資産取得支出	1,973,000	2,243,400	△ 270,400
② 固定資産取得支出	0	4,445,064	△ 4,445,064
(1) 工具器具備品購入支出	0	950,400	△ 950,400
(2) 公共施設負担金取得支出	0	3,494,664	△ 3,494,664
投資活動支出計	21,973,000	31,126,536	△ 9,153,536
投資活動収支差額	73,277,000	79,513,664	△ 6,236,664

III 財務活動収支の部			
1 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2 財務活動支出			
① リース債務支払支出	0	404,250	△ 404,250
財務活動支出計	0	404,250	△ 404,250
財務活動収支差額	0	△ 404,250	404,250

指定管理業務 収入合計	530,828,000	560,484,312	△ 29,656,312
指定管理業務 支出合計	546,294,000	574,550,357	△ 28,256,357
当期収支差額	△ 15,466,000	△ 14,066,045	△ 1,399,955